

第1回 「国土交通広域連携中部会議」

議事速報

日時 平成15年7月28日（月）14:00～15:30
場所 名古屋東急ホテル 3階「錦の間」

1. 開会

○司会（土屋 中部地方整備局副局長）

- ・ 只今から「第1回 国土交通広域連携中部会議」を開催いたします。
- ・ 本日は、ご多忙中にもかかわらずご出席を賜り、誠にありがとうございます。
- ・ ご出席の皆様につきましては、お時間も限られていますことから、お手元の「出席者名簿」にてご紹介とさせていただきます。

○中馬 国土交通省副大臣

- ・ 本日は皆様お忙しい中、本会議にご出席いただき御礼申し上げます。
- ・ 本会議は、国と地方、学識経験者、経済界が率直に議論を行い、広域的なテーマや地域の将来像についての共通認識を持つことを目的として、国土交通省において提唱させていただいているものである。
- ・ 「中部の将来ビジョン」である「まんなかビジョン」を基に、闊達なご意見を頂戴したい。
- ・ 国土交通省では、先般成立した「社会資本整備重点計画法」に基づき、「社会資本整備重点計画」を策定することとなっている。
- ・ 社会資本の整備を重点的、効率的かつ効果的に推進していくためには、それぞれの地域特性に応じた社会資本の整備方針をそれぞれの地方ブロックごとに明らかにし、県・市・国がこれを共有することにより連携・協力していくことが重要である。
- ・ 本日の会議を皮切りに、地域での議論を深め、中部ブロックにおける社会資本整備のあり方、将来像等を共有し、社会資本整備の重点的、効果的な推進に努めたいと考えている。
- ・ 現在、中部地方は、2005年日本国際博覧会「愛・地球博」、「中部国際空港の開港」、「東海環状自動車道の供用」などビッグプロジェクトが進行しており、日本国中から大変期待されている。
- ・ 中部地方は「富士山」「白川郷」「熊野古道」といった多くの歴史的・文化的な資産が数多くあり、観光振興についても積極的に取り組むことのできる地域である。
- ・ また、古くから現代に掛けて中部地方で培われてきた「匠の技」「モノづくり文化」や「日本のまんなかである」といった地理的な特性など他の地域にはない強みを持っている。
- ・ これらの強みを活かしつつ、それぞれが特有の個性を持った地域で構成されている中部を、互いに結集し地域における連携を強化しながら「中部のビジョン・まんなかビジョン」を共有化していくことが極めて重要であると考えている。
- ・ 本日の会議では、お集まりいただいた方々の忌憚のない意見交換・議論をお願い申し上げます。

2. 議 事

・「中部ブロックの将来の姿」について

◇ 話題提供

○村田 中部地方整備局局长

[資料—1 (中部ブロックの将来の姿) の説明]

- ・ 本会議の趣旨は、国と地方公共団体、地元経済界、有識者等が一堂に会し、地方ブロック戦略について意見を交換し、それを共有することを目的としている。
- ・ 地方の時代と言われている中で、地方ブロックといった単位での広域的な視点に立って、観光政策及び社会資本整備の方針を考えていく必要がある。
- ・ 本会議で、中部ブロックの課題や将来ビジョンについての共通認識を構築し、一致団結して課題やビジョンの実現に取り組んでいきたい。
- ・ 去る6月6日に、中部の将来ビジョンである「まんなかビジョン」の最終的な調整がされた。
- ・ 本日は、副大臣をはじめとする各県知事・市長の方々や、他省庁からも当地域の代表が出席しており、本日この場で頂いた皆様のメッセージは、全国的に広く伝わる。
- ・ 社会資本整備計画の策定手続を進めているところで、素案についてのご意見を広く国民の皆さま、また各県にもご意見の提出をお願いしている。
- ・ 重点計画の特徴としては、これまで事業分野別にあった9つの長期計画を一本化し、コスト縮減や事業間連携の強化などを含む、新たな計画への転換、「事業量」を「達成される成果」、いわゆるアウトカムに転換するものである。
- ・ 第1章の(8)「社会資本整備における新たな国と地方の関係の構築」に「地方ブロックの社会資本の重点整備の方針をとりまとめる」の記述があり、この部分をどうとりまとめて行くのかが地方の腕の見せ所である。
- ・ 本会議のテーマである「中部ブロックの将来の姿」が、ここにお集まりの皆様の共通認識からうまれることが必要。
- ・ 「まんなかビジョン ～対話と協働作業の成果～」は、国土交通省・4県1市・地元経済界が共有するビジョンとして策定されており、本日も議論頂く「中部ブロックの将来の姿」の「叩き台」となるのではないかと理解している。
- ・ これまで、国の地方機関や、県それぞれのビジョンや総合計画は多数あったが、それぞれの機関が協働で作成したビジョンは今回が初めて。
- ・ 広報やアンケートといったものに加え、実際にそれぞれの地域に飛び込んで地域の皆様のご意見を直接聞く「討論会」を開催し、その討論会で得られた意見を数多くこのビジョンに盛り込むことが出来たことも、このビジョンのポイントである。
- ・ 「まんなかビジョン」は、概ね10～20年後の中部地方の将来像と地域づくりの目指すべき方向、その実現に向けた具体的な目標を示しており、今後も着実な実践と「不断のフォローアップ」を繰り返していくので、引き続きご協力を願う。
- ・ 「まんなかビジョン」の柱となっている7つの目指すべき方向については、まずI番目に「モノづくり産業の国際競争力の強化」を掲げた。
- ・ 中部は、モノづくりの産業の集積地域として大きなポテンシャルを持っている。今後さらに国際競争力を強化し、アジア地域のリーダーシップを発揮するとともに、日本の経済を牽引していくことが重要である。2005年開港予定の中部国際空港は、アクセス強化をはじめ、いかに利用しやすい空港として活用を図るかが今後の課題。
- ・ II番目に、「世界都市を目指した名古屋と各拠点都市の魅力の向上」。名古屋の世界

的な魅力向上、地方の拠点都市においても、特に駅前などの人が集まる地区においては、広い歩道などの整備で街の人通りを増やすことや街なか居住を推進し、賑わいを倍増させる。

- ・ III番目は、「東海環状都市圏・環伊勢湾広域交流圏などの形成による新たな交流の拡大」。2005年の愛・地球博の開催にあわせて、東海環状自動車道の東側約73kmが、一気に完成する予定。これを機会に、「人、モノ、文化、情報」の交流・連携が生まれ、複数の自治体が境界を越えて連携するような取組について関係者が一体となって検討。
- ・ IV番目に、「日本のまんなかである優位性を活かし、国土の東西・南北軸の強化や交流拠点整備による国内外交流の推進」。大動脈としての道路の強化と併せて、宿場町の再生などが重要。2005年の愛・地球博に向けても、これを契機としたまちの景観向上など中部地方全体で成功に向けた取組を行うことが必要。
- ・ V番目は、「中部の豊かな自然環境、歴史、文化などを活かした地域づくり、観光振興」。失われた自然の再生や、貴重な自然環境の保全・活用。熊野古道をはじめ中部地方に点在する歴史的、文化的資源の有効活用を図る。また、産業を観光に活用するという中部らしい観光を、経済界と行政が一体となって取り組んでいく。
- ・ VI番目に、「誰もが生き生きとして暮らせる豊かでゆったりとした生活環境の実現」。積極的にユニバーサルデザインの導入、コミュニティーバスなど地域の特色に合った交通の導入なども促進。社会資本の整備や管理にも、住民参加型の取組や住民参加の仕組みづくりなどを積極的に取り組む。
- ・ VII番目は、「東海地震をはじめとした災害に強い安全・安心な地域づくり」。
- ・ 中部地方では東海・東南海・南海地震などをはじめとする大規模な災害が想定。
- ・ 広域的な視点が大変重要。3年前の東海豪雨災害や昨年発生した大垣水害など、教訓を活かしながら、今後の災害対策を推進。
- ・ 以上が「まんなかビジョン」の説明である。
- ・ 今後、中部で予定されているビッグイベントとしては、2004年に「ITS世界会議」、 「浜名湖花博」、2005年に「愛・地球博」、「世界ボート選手権」が予定されている。
- ・ 本日の意見交換によって「中部ブロックの将来の姿」の大枠が導かれることを期待している。
- ・ 県境を越えた議論によって、本日同席したメンバー全員の「中部ブロックの将来の姿」の共通認識が導かれるように、また、全国に向かって発信するメッセージがうまれることを期待している。

◇ 意見交換

○梶原 岐阜県知事

- ・ 「まんなかビジョン」のとりまとめにあたっては、一生懸命取り組んでいると高く評価したい。とりわけ、中部地域においては、地域の声を丁寧に吸い上げていただいている。
- ・ 日本全国それぞれの地域によって事情が違うので、手続的にも、制度的にも国が決定したことを一方的に地域にブレイクダウンするという発想はやめて、ぜひ積み上げ方式で進めていただきたい。
- ・ この転換期には、原点に立ち帰って、グローバルに、しかも非常に長いタイムスパンで日本全体を考えることが必要だ。
- ・ 明治維新以来、東京中心に太平洋に重点が置かれ、欧米との競争の中で国土計画が行われてきたが、何千年という長い歴史の中では日本海が中心であった。この地域

は、太平洋と日本海が非常に近接した地域であり、関西・近畿地域も含めこの地域を中心に国が発展してきた。

- ・ 21 世紀に入り、再びアジアの時代が到来すると、日本海の重要性が高まるであろう。原点に立ち帰り、地政学的にこの地域をどう考えていくか、日本全体のためにどうあるべきかを考えてみる必要がある。
- ・ これからは外から眺めるという発想が必要。アジアの方から日本を眺めて、その中で中部地域を考えるべきである。
- ・ 地政学的な立地条件、水資源等の資源や自然環境、インフラなどについてそれぞれ点検し、その中でどういう産業を興していくべきか、またその産業を支える人をいかに育てていくかということを考えていく必要がある。
- ・ 特に人という観点からの点検が必要である。従来はインフラ中心に進めてきたが、人をどう育て、どう確保するかを考えるべきである。
- ・ グローバルに人材の確保を考えるべきで、海外の人たちをこの地域でどう確保していくか考えていく必要がある。これからは日本人だけで地域は経営していくことは難しくなる。
- ・ グローバルな発想で観光産業なども考えていくべきであるが、その際、近畿や北陸の国の地方分支局との連携が必要となってくる。横の連携をしていただかないと大きな枠組みで考えることはできない。
- ・ 広域連携を考える際に、所管の局が違うと、局同士が話をしていないために、困ることがある。特に、国土交通省、経済産業省、総務省、相互のコミュニケーションがよくない。中部地方の各機関が定常的に話し合いを持って、関係機関の連携をとって総合的にやっていただきたい。
- ・ 中部4県の経済力を世界的にみれば、メキシコやブラジルに匹敵する。そのような力を持つ地域が力を発揮するためには連携していくべきである。
- ・ 岐阜県の土岐川に小里川ダムが完成した。このダムは、多くの犠牲を払って完成させたわけだが、このダムによって名古屋の水害が防げるであろう。名古屋の市民の方々にはわかってもらっていないようであるので、上流県としては、もっと注目していただきたいと思う。

○鈴木 静岡県副知事

- ・ 「まんなかビジョン」は、アウトカム指標や数値目標が示されている。また、PIを積極的に進めているなど、県としても、とても参考になるビジョンとしてまとめられている。
- ・ 静岡県では、現在、静岡空港を建設しており、仕上げの段階に入ってきている。また、第2東名、中部横断自動車道など諸々の重要なプロジェクトが進められている。そういう中で、「まんなかビジョン」と整合を図っていきたい。

○神田 愛知県知事

- ・ 「まんなかビジョン」については、アンケートやヒアリング、討論会などかなり積極的に積み上げ式でビジョンをとりまとめていることを高く評価する。
- ・ 国のこの種の計画は、形の上では「対話型」と称して進めているものの、なかなか地方の声は吸い上げられていないのが実状。そうした中で、「まんなかビジョン」はきめ細やかにやっていただいている。まさに地域とのコラボレーションであろう。
- ・ 中部地域は、一言で言えば「多様性のある地域」。愛知県で言えば、平野があって、山があって、海があり、工業が発達し、商業、農業も大変な進展をみせている。農

業粗生産額は全国 5 位、商業が全国 3 位、工業出荷額は 25 年間、全国 1 位である。

- ・ この地域の多様性は非常にバランスよい。このバランスを保ったままさらに発展できるかどうかは今後のメルクマークとなるであろう。
- ・ ビジョンの中で、7つの目指すべき方向のうち、前半 5 つに共通するのは「グローバリゼーション」であろう。我々、愛知県も 2005 年の「愛・地球博」を契機とした「ポスト 2005 年」を考える際にはグローバリゼーションが最も重要なキーワードであると考えており、今年度から「国際交流大都市圏構想」というものを考えていくこととなった。
- ・ グローバル化の中で重要な役割を果たすのは国際空港である。中部国際空港が生きてくるためには、背後圏とのアクセス整備が重要である。東名、第 2 東名、西北道路がネットワークを築くことで、国際空港としての利便性がレベルアップするので、空港整備と同時進行で進めていかなければいけない。
- ・ この地域には名古屋港、三河港があり、いずれも構造改革特区に指定された。
- ・ 特に名古屋港は「名古屋港産業ハブ特区」に指定され、この地域のものづくりの海外に向けた窓口となる港であり、今後は、スーパー中枢港湾への指定を視野に入れて皆様方のご協力をいただきたい。
- ・ 三河港については、「国際自動車特区」に指定された。これも背後圏とのアクセス性の向上が重要である。
- ・ グローバルという観点では、「愛・地球博」に 112 カ国の参加表明をいただいている。このような大きな広がりを見せている中で、このチャンスを生かさない手はない。「愛・地球博」を契機に、広域的に観光メニューを用意して、国内外に PR して観光客を拡大していくことが重要だ。

○野呂 三重県知事

- ・ 地域住民を含めた地域との連携を重視して下から積み上げていることを評価したい。
- ・ 三重県においては、北川県政が進めてきた長期計画をあらたな角度から見直し、「県民しあわせプラン」をつくっている。「まんなかビジョン」や国土交通省の計画と連携させていきたい。
- ・ 中部地域としては、ものづくりの中心地であり、さらに国際競争の中で打ち勝てるものにしていくことが大事である。また、豊かな自然、歴史、文化があり、観光振興や個性ある地域づくりも大変重要である。
- ・ さらに付け加えるならば、いつおこっても不思議でない東海地震、東南海・南海地震への対策が重要である。三重県も「三重地震対策アクションプラン」を今年 3 月に策定し、これに基づいて、公共施設の耐震化や緊急輸送対策をやっという取り組みと取り組んでおり、着実に進展させていきたい。
- ・ 東南海・南海地震についての措置法が 7 月 25 日に施行された。東海地震と東南海・南海地震は同じレベルで対策を進めていただきたい。
- ・ 観光振興、個性ある地域づくりに関しては、三重県も中部国際空港や愛・地球博も視野に入れて進めていきたいと考えているが、いまひとつパンチ力が弱いということで、三重県においては新しい観光振興戦略を策定する。
- ・ 「熊野古道」が世界遺産に登録されると、東紀州の活性化につながるものとして大いに期待している。これを契機に優れた自然や環境を十分に発信していきたい。
- ・ 東紀州地域は、関西圏とも非常に近い地域であり、関西圏との交流も視野に入れて考えていかなければならない。

- ・ 三重県においても社会資本整備は必要不可欠なものであり、特に国道 42 号線は代替道路がなく、大雨が降るだけで、東紀州は陸の孤島となってしまう。緊急輸送路としての高速道路整備に期待が大きく、ぜひ迅速に整備していただきたい。
- ・ これは熊野古道等の歴史資源を活用する上でも、中部圏の南北軸を強化するうえでも重要である。
- ・ 三重県の北勢地域はものづくりという点では中心地となってきた。そういう点からも、第 2 東名・名神高速も必要不可欠。中部圏が関西圏あるいは首都圏という交流を密にする基盤として早急に整備していただきたい。

○松原 名古屋市長

- ・ 「まんなかビジョン」では、「中間とりまとめ」から「対話と協働の成果」まで、この間の経過を大事に取り扱っており、大変意義のあるものである。
- ・ 7つの目指すべき方向の中に、「世界都市を目指した名古屋と各拠点都市の魅力向上」とあるが、名古屋市においては、特に都心部の再生が不可欠であると考えている。点の整備ではなくて、点から面になることが重要で、総合的な施策の展開が必要。
- ・ 例えば、名古屋駅から栄地区が都市再生緊急整備地域に指定を受け、大規模なビルが建ち並んだ魅力的な空間が確保されたとしても、都心部への車の流入が増えれば、都心の魅力はかえって失われてしまう。
- ・ やはり、都心部への車の流入抑制が必要であり、都市高速道路、都市間の高速道路、名古屋環状 2 号線の整備が必須だと考えている。
- ・ また、パーク・アンド・ライドのための駐車場の確保、公共交通機関の整備もやらなければならない。それによって、公共交通機関への利用転換を促進することができる。
- ・ 公共交通機関への利用転換を図る中で避けて通れない課題としては、3セク鉄道への支援のあり方がある。交通事業が公共事業であるからといって、効率性・経済性を軽んじた経営であってはならないと思うが、民間事業者が不採算路線を切りつめていってしまうと、地域の足としての公共交通機関の確保が問題となってしまう。3セクへの転換を図っていくことも必要であり、単に独立採算を問うのではなく、総合的な交通施策の中で支援のしくみが必要である。
- ・ 2つ目の課題としては、「環境に配慮した道づくり」が挙げられる。道路を造る際には、環境の問題からいろいろ行き詰まることもある。名古屋環状 2 号線の整備に関してはずいぶん環境面に配慮していただいた。
- ・ 名古屋市でも弥富・相生線の整備においては、環境の面から反対運動なども起きて、計画を見直す必要があり、工事費も工期も大幅に増大したが、結果的に環境に配慮した道づくりとして全国的にも情報発信できる内容であると思う。今後の公共工事にあたっては環境面への配慮がとても重要になる。
- ・ 最近、犯罪が増えている。都市の魅力を高める上では、ハード施策とソフト施策をうまく組み合わせて、安全・安心な都市を造っていかなければならない。

○須田 JR東海会長

- ・ 「日本のまんなかである」ということをテーマに出してひとつのビジョンをまとめたことは大変意義深いことである。
- ・ 同時に、7つの方向を縦軸に、いろいろな具体的なテーマを横軸に、いわゆるマトリックスをつくって、施策として展開していただきたい。

- ・ 中部が交流中枢になるということは、「日本のまんなか」としての使命である。これから、日本の人口が減少し、社会が構成できなくなる地域も生じてくるであろう。
- ・ 人と人とのふれあいが文化を育むわけで、人口が減少してきた場合には、人と人との交流を円滑化させて、ふれあいの機会を増大させることが非常に重要。
- ・ いろいろな人がこの地域でふれあう手段としては、観光が最も端的な手段である。観光という面からこの地域のインフラなどを見直していただきたい。
- ・ 日本のまんなかにある地域としては、日本における近代的で、効率的な交通システムのモデル地域を目指していただきたいが、この地域は交通手段間のバランスがとれていない、モード間の連携が十分でないといった問題がある。
- ・ 若干の投資が必要であるが、交通機関同士の連携を図り、交通結節点の強化によって交通手段のバランスをとれば、大きな効果があるだろう。日本のまんなかである地域がそのように近代的なモデル交通システムを築けば、その効果は全国に生きるはずである。それはまた、この地域の使命でもある。

○松尾 名古屋大学総長

- ・ この地域の地形的、地理的優位性や国際性、経済性、産業性等々の優位性をきちんと認識して、日本の中核をなす地域として強い意志と協力をもって進んでいくことが何よりも重要である。中部地域は、日本の拠点として発展することが望ましく、その可能性を秘めた地域である。
- ・ 社会資本の計画においては、「技術≠スピード」であり、3世代、4世代先の人と価値観や責任や負担を共有するものである。これを強く認識したうえで、後世の人が使いやすいように可変性のある社会資本を考えていくことも重要である。
- ・ 社会資本整備は、まさに文明を背負うということであり、この地域にそのような気概を持った人たちが集まってくる地域を目指すべき。
- ・ 日本は、何もかも縮小の傾向をたどるであろう。そういう中で社会資本、国造りをどう考えるか。余力のあるうちに、いかに着実に整備していくかということ十分に考えるべきである。
- ・ 以前から「コンパクトな地域づくり」を指摘してきたが、最近では「コンパクトシティ」として定着してきた。これも余力のあるうちにやる必要があり、3世代、4世代先の人達への義務であろう。

○太田 中部経済連合会会長

- ・ 相変わらず景気は低迷しており、自立回復への道筋は不透明である。特に、製造業においては、海外生産比率が10年前は6.4%だったものが、2001年には14.3%まで増加しており、確実に空洞化が進んでいる。
- ・ この地域も産業空洞化は例外ではなく、我々も中部5県1市で連携して、欧米諸国に企業誘致ミッションを派遣するなどいろいろと活動をしているところである。
- ・ 産業の国際競争力を支えるうえでは、空港、港湾、道路などの社会資本が重要であり、特に東西を結ぶ第2東名・名神高速道路、南北軸の東海北陸道などこの地域だけでなく、関西圏や北陸圏など他地域にも開いたインフラ整備が重要である。
- ・ 名古屋を中心とする地域については、放射状の道路網ばかりが整備されてきたので、東西軸や南北軸、環状道路の早期整備を期待したい。
- ・ コンテナ船の大型化に対応するべく、名古屋港はスーパー中枢港湾の指定とあわせてしっかり整備していただきたい。
- ・ この地域の航空貨物の約85%が成田空港、関西空港に奪われてしまっているので、

中部国際空港ができた際には、旅客だけでなく、たくさんの航空貨物を取り扱う物流拠点として活用されるようにすべきである。

- ・ ビジョンをどうやって実現するかが一番の問題。ビジョンの実現に向けた政府や行政の努力を賜りたい。

○箕浦 東海商工会議所連合会副会頭

- ・ 2005年のビッグプロジェクトである「愛・地球博」と「中部国際空港」の2大プロジェクトの推進は、最重要課題として重点的に進めていただきたい。そして、関連する道路やまちづくりの推進を万全に進めていただきたい。
- ・ 特に、第2東名・名神高速道路、東海北陸自動車道、東海環状自動車道などの広域的幹線ネットワークについては、今後の当地域の発展には不可欠な要素であり、いっそうの整備促進をお願いしたい。
- ・ 当地域は、ITSの先進地域として一部で実験が開始されており、2004年には、「ITS世界会議」が開催される。この世界会議の開催を成功に導くとともに、中部国際空港などで先進的な導入をおこなってほしい。
- ・ 今後は、国内外に積極的に情報発信し、当地域の高度道路交通システムがグローバルスタンダードとなることを期待したい。
- ・ 当地域はものづくりの中心地であり、名古屋港は、中部のものづくりを物流面から支えるゲートウェイである。名古屋港がハード、ソフト両面で国際的な競争力を備えた港になることは、当地域の持続的発展に大きく寄与するであろう。

○神谷 静岡商工会議所連合会会長

- ・ 静岡県内の市町村合併が盛んに進められており、今年の4月1日には静岡市と清水市が合併して新しい静岡市が誕生し、政令指定都市を目指している。また、浜松を中心とした「天竜川・浜名湖地域合併推進協議会」もいずれは政令指定都市を目指すことになる。そうなるインフラの整備が必要となる。地震の面からもさらなるインフラの強化が必要である。
- ・ 特に東名自動車道については、渋滞が頻発し、事故も多発し、社会経済活動にいろいろと支障を来している。東海地震の影響を想定して、代替手段を確保しておくべきである。
- ・ 第2東名高速道路は建設を凍結することなく、引き続き建設を進めていただきたい。
- ・ 特定重要港湾の清水港は開港後100年を経過しているが、この機能拡充は、陸海空のアクセスとして中部圏にとっては大きな意味を持つであろう。
- ・ また、御前崎港は静岡空港とも至近距離にあり、第2東名のプロジェクトと併せて、臨海性産業集積として期待している。
- ・ 本格的な空の時代を迎え、本県と国内の主要都市を結ぶ空の玄関として、また首都圏空港の代替空港としても静岡空港は必要不可欠な社会資本である。

◇ 自由発言

○細川 中部経済産業局局長

- ・ 当局もこの春、「中部地域経済産業の将来展望」としてアクションプランを策定した。「まんなかビジョン」と共有する問題意識がいくつかある。
- ・ 広域連携に関していうと、各地域が多様なニーズに対応しようとして、それぞれがフルセットで対応しようとするのは非効率である。コアとなる地域に資源を集中させ、ネットワークによって相互補完するという考え方が重要。

- ・ 企業では「選択と集中」ということをおこなっているが、地域開発においてもひとつのキーワードになるのではないか。
- ・ 梶原知事の発言のように外から見る観点も重要。グローバル化な観点で地域間競争が起きている。企業あるいは人材は国境を越えて地域を選択する時代に入っている。国際的な企業や人材を引きつけるマグネット効果が重要になってきている。

○西川 東海農政局局長

- ・ 当地域は、古くから水利施設を設け、厳しい自然環境の中でも農業地域として発展し、日本有数の農業地域・工業地域としての発展を支えてきた。これらの水利施設は、耐用年数を越えたものも多数あるため、当地域の発展の基礎となるものとして、次世代につなげるべく、計画的に施設の更新をおこなっている。
- ・ 当局では、農山漁村の地域振興という観点からグリーンツーリズムやバイオマス・エネルギーの活用などにも取り組んでいる。これらの取り組みにあたっては、関係省庁や各自治体と連携をとりながら、特色ある地域づくりを展開していきたい。

○坂田 東海総合通信局局長

- ・ 情報化の進展は、中央の画一的な情報の提供から各地方の個性ある情報が相互に飛び交う時代になるといえる。この地域の情報化が進むように関係機関と協力しながら進めていきたい。
- ・ 今年の12月から、放送のデジタル化が始まる。これは世界的にも、導入が検討されていることであるが、全国に先駆けて、中京3県で本格的に実施される。こうしたことが与える経済的な効果や情報化に与える影響は大きいと考えられる。

○平山 中部運輸局局長

- ・ 本日は様々なご意見をいただき、大変感謝する次第である。
- ・ 「まんなかビジョン」については、地域の声を聞きながらとりまとめたことについて、各県知事・市長から評価をいただいたことは、大変勇気づけられた。
- ・ 今日のご意見の中で、何点かポイントを以下にまとめさせていただく。
- ・ それぞれの地域ごとに特性を有しているため、地域のことは国が決めるのではなく、地域が決めるのだというご意見をいただいた。
- ・ 我々もこういう視点を念頭において政策を考えていきたいと考えている。
- ・ 転換期を迎え、「グローバル化」、「国際化」が重要なキーワードになるというご意見をいただいた。
- ・ 特に、外から見た視点、アジア中心の時代が来るという視点で考えると、従来の東京中心ではなく、中部は地政学的にも重要な地域として考えられ、全国に先駆けたモデル地域としていろんなことをやっていくべきではないかというご意見をいただいた。
- ・ その中では、インフラ整備だけでなく、人材育成などソフト部門も含めて重要な問題であり、特に「国際観光」という切り口は重要で、観光に関わる様々な整備を心がけるべきであるというご指摘をいただいた。
- ・ また、当地域は中部国際空港、愛・地球博という大プロジェクトを控え、国際交流中枢を活かす上では、積極的に進めるべきであるというご意見もいただいた。
- ・ 中部ブロックだけでできないこともあり、周辺のブロックと連携して進めるという視点を忘れてはいけないというご指摘もいただいた。
- ・ 街の総合的な整備のあり方についてもご意見をいただいた。いわゆる重要な足であ

る3セク鉄道への積極的な支援のあり方を考えるべきであるというご意見をいただきました。

- ・ 街においては、安心・安全という観点も忘れてはいけません。特にこの地域においては、地震防災対策も、安心・安全を考える上では重要であり、積極的に施策を展開すべきであると認識している。
- ・ 特に重要なご指摘としては、「ビジョンをつくることが大事なのではなくて、ビジョンをどう実現するかということが重要である」というご指摘もいただきました。
- ・ 今後、ビジョンを実施していく上では、各県知事や市長、経済界の方々のご意見をいただきながら、さらに検討すべき事項であると認識している。

○中馬 国土交通省副大臣

- ・ 本日は、貴重なご意見を賜ると同時に、「まんなかビジョン」についても、その積み上げ方式に対して評価をいただいたことを大変心強く思う。
- ・ 岐阜県と長野県では、県境を越えた合併を推し進めているとのことで、苦勞をなされていると存ずるが、道路においても、県境がネックになっている。セクショナリズムを改めなくてはならないと感じている。
- ・ 道路については、民営化の議論があるが、決して採算だけで考えてはいけません。ネットワークがすべてつながってこそ機能が発揮されるものであり、それを成し遂げるのが我々の使命であると認識している。
- ・ 港湾については、これまでは、各地域のそれぞれの港に配慮しすぎたのではないかと反省している。オランダのロッテルダム港が欧州随一の港となったのは、それだけ集中投資をしているからこそである。したがって、重点的に「スーパー中枢港湾」という施策を進めている。機能を効率よく分担してやっていくことも重要である。
- ・ 都市交通問題については、3セク鉄道の新たな見直しについてもご意見があった。都市の必要な機能のひとつとして交通を考えていくべき時代になってきているのだろうと思う。
- ・ 国際化については、観光が重要であろう。愛・地球博や中部国際空港をおおいに活かして、国際化を進展させていってほしい。
- ・ 先日、「もっと外国から訪れた人の利便性を考えるべきだ」というご指摘を受けた。道路標識や観光案内をわかりやすく外国語表記を徹底させる必要がある。
- ・ また、日本のホテル代、旅館代などが高い。コストを下げる方法はいくらでもある。中国やヨーロッパから来る若い人たちに日本をよく知ってもらえるように、コストを安くするしくみをつくっていくべきではないかと思う。
- ・ 環境問題については、これからの重要な課題であると認識しており、河川改修や海岸事業において、自然を再生する事業などを国が責任を持って積極的に進めていこうとしている。
- ・ 東京、大阪だけでなく、この地域が日本の中核として発展を目指していただきたいと思う。

以上